

こんわ 越王だより

家庭数配付

地域回覧

発行所 新潟市立巻北小学校



<http://www.makikita.city-niigata.ed.jp/>

令和4年5月17日 No. 3



みんなちがって みんないい

教頭 山形 昭

私の大好きな詩の一つに、金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」という詩があります。3年生の国語の教科書にも載っているととても有名な詩です。

人は、だれもが得意なことがあれば苦手なことがあります。当たり前のことであり、それが個性でもあります。しかし、親になると子どもの将来のことを考えて、「苦手なことを

私と小鳥と鈴と
私が両手を広げても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私がからだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

なくしてあげたい」「もっと上手にできるようにしてあげたい」という気持ちから、ついついそれを無理に頑張らせてしまうことがないでしょうか。自分自身を振り返ってみると、私も自分の子どもにそんな接し方をしたことがあったように思います。苦手なことを指摘され「もっと頑張れ」と言われた子どもや、「なんでそんなこともできないんだ」と注意された子どもはどんな気持ちでしょうか。「頑張っているよ。でも上手くできないんだ」と、自信をなくしたり自分が嫌いになったりすることがあるかもしれません。

もちろん、苦手を克服することも大切だと思いますが、まずは得意を伸ばしてあげることの方がよいのではないかと考え、今では息子や娘にそのように接するようにしています。得意なことなので、子どもは頑張るし、楽しいし、伸びも実感しやすいです。伸びると、「こんなにできるようになったよ」と得意げに話してきます。それを聞いて「すごいね。じゃあ、今度はこのくらいに挑戦かな」と、賞賛し次の目標を提案しています。このように、得意なことから自己肯定感を高めることで、苦手なことにも少しずつ取り組んだり伸びたりしていくのではないかと考えています。できるようになる時期は、人それぞれ。焦ることはありません。「みんなちがって、みんないい」のだから。

学校では5月21日(土)に開催予定の運動会に向けて本格的な練習が始まっています。徒競走を頑張っている子、リレーを頑張っている子、応援を頑張っている子、ダンスを頑張っている子…。それぞれの子どもたちがそれぞれの目標に向かって頑張っています。今年度も、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら取り組みます。地域・保護者の皆様には、様々な制限のある中での開催となり、大変申し訳ありません。子どもたちの安全を第一に考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



目指せ！日本一の巻北米



5年生は総合的な学習の時間で、米作りの学習をします。4月13日に「米作りの先生 小林さん」や、JAの職員の方から米作りの第1段階である「すじまき」のやり方を教えていただきました。子どもたちは、育苗箱に「新之助」の種を均等に撒いていました。



22日に、学校田で「田起こし」を行いました。指導を受けながら、田んぼの土をほぐしました。硬くなっている土をスコップで起こすことは難しいようでしたが、子どもたちは根気強く取り組んでいました。



5月9日、田植えの前段階である「代かき」を行いました。子どもたちは裸足になり、小林さんから「踏めば踏むほどおいしくなるよ。」と指導を受けながら、田んぼの土を一生懸命踏みしめていました。最後に、トラクターできれいに仕上げてくださいました。



13日に、多くのボランティアの方々にご協力いただきながら、「田植え」を行いました。ちょうどよく育った苗を持ち、少しずつ丁寧に植えていきました。子どもたちは、きれいに田植えの終わった田んぼを眺め、充実感に浸っていました。

